

福祉社会専攻

社会福祉やコミュニティマネジメントの専門知識と実践能力を修得

「社会福祉」や「コミュニティマネジメント」に関する高度専門職業人（ソーシャルワーカー、政策立案者、コミュニティプランナーなど）、研究者の養成を目的としています。社会福祉、コミュニティマネジメントの幅広い課題に応えるために、ソーシャルワーク系、システム・マネジメント系、コミュニティ・デザイン系の3領域の科目群を設置。また、社会人が学びやすいようにさまざまな制度を整えています。

授業は、昼間は主に多摩キャンパスで木曜、金曜に開講（一部土曜を含む）。夜間は市ヶ谷キャンパスで月曜、火曜に開講。単位互換制度を利用した福祉系13大学の授業の履修も可能です。

生活する人の視点に立ち、Well-being社会の創造に寄与する多様な観点やアプローチによる研究に取り組んでいます。

研究室紹介

土肥 将敦 教授

SDGs時代に求められる
企業責任とイノベーション

企業の経営活動と
我々の消費活動そのものを問い直す



土肥将敦研究室の研究テーマは、社会のさまざまな問題を企業やNPO/NGOがビジネスの手法で解決に結びつける「ソーシャル・イノベーション」です。ソーシャル・イノベーションとは、「社会的課題の解決に取り組むビジネスを通して、新しい社会的価値を創出し、経済的・社会的成果をもたらす革新」を意味します。ソーシャル・イノベーションの調査・研究はまだ始まったばかりですが、土肥研究室では、理論研究を充実させるとともに、さまざまな社会的課題に対して「どのような解決策を提案できるのか？」という実践的な側面も重視しています。企業活動がグローバル化し、その社会的責任(CSR)が問われる中で、企業や消費者が果たすべき役割は何かを考えています。

学生・修了生の声

葛西 優香

修士課程 在学中



地域の防災力向上に関する
研究を進め、災害の被害者を
ゼロにすることが目標です

私の研究

地域の防災力向上のために必要な土地要素や人の行動を研究しています。防災を専門とした仕事をしているため、学術的な素養を深め、自分自身の「論」を明確にしたかったことが進学を決意した理由です。現在は学びを深める中で、防災と福祉の強い関係性を知り、この2つを両軸に知識を深めています。

将来の夢

法政大学大学院で学んだことを活用して、地域内で必要な人材、組織づくりを明確化し、行政、地域住民、企業などでそれぞれの役割を整理したいと考えています。そうして地域からの声が届きやすく、かつ防災力向上のメソッドが伝わりやすい仕組みづくりに取り組んでいき、最終的には災害時の被害者をゼロにできる地域を拡大していくことが目標です。

研究テーマ

住民防災組織の地域防災力強化に向けた組織的アプローチの研究 ～葛飾区の活動事例を通して～

アドミッション・ポリシー

(学生受け入れ方針)

〈入学前に修得しているべき能力〉
【AP1 知識】4年制大学で学ぶ社会福祉と地域づくりに関わる知識を修得している
【AP2 英文読解力】専門領域に関わる英語力を有している
【AP3 思考・判断】研究テーマに関して、論理的に思考し、判断できる
【AP4 意欲・関心】研究テーマへの強い研究意欲をもち、実践的な関心を有している

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施方針)

〈教育課程の編成方針〉
本専攻の学位授与方針を達成するために、以下の通り教育課程を編成する。
修士(福祉社会)
【CP1】DP1専門知識、DP2読解力を養成するため、コースワークとして、福祉社会研究に共通する研究方法を修得する「専門共通科目」、福祉社会の課題と理論を3つの領域から学ぶ「専門展開科目」をおく
【CP2】DP2読解力とりわけ専門英文読解能力養成のため、「原書講読研究」をおく
【CP3】DP3表現力、DP4実践能力、DP5研究力を養成するため、リサーチワークとして、修士論文に取敢するよう個別指導を行う「演習科目」をおく
修士(学術)
【CP4】DP6専門知識、DP7読解力を養成するため、コースワークとして、福祉社会研究に共通する研究方法を修得する「専門共通科目」、福祉社会の課題と理論を3つの領域から学ぶ「専門展開科目」をおく
【CP5】DP7読解力とりわけ専門英文読解能力養成のため、「原書講読研究」をおく
【CP6】DP8表現力、DP9実践能力、DP10研究力を養成するため、リサーチワークとして、修士論文に取敢するよう個別指導を行う「演習科目」をおく

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

福祉社会専攻では、福祉社会の形成に関わる専門知識と研究方法を習得し、それらにもとづく基礎的な研究力を、高度な職業活動や実践的な研究において生かすことが可能な、以下の知識と能力を有する院生に「修士(福祉社会)」あるいは「修士(学術)」を授与する。
修士(福祉社会)
【DP1 専門知識】福祉社会分野に関する必要な専門知識を有する
【DP2 読解力】内外の先行研究を正確に読み取ることができる
【DP3 表現力】文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる
【DP4 実践能力】職業人もしくは研究者として必要とされる実践を行なえる
【DP5 研究力】自発的に研究課題を設定し、計画的、系統的に研究を遂行できる
修士(学術)
【DP6 専門知識】社会福祉分野と地域づくり分野に関する必要な専門知識を有する
【DP7 読解力】内外の先行研究を正確に読み取ることができる
【DP8 表現力】文章および口頭により、自身の考えを他者に論理的に伝達できる
【DP9 実践能力】職業人もしくは研究者として必要とされる実践を行なえる
【DP10 研究力】自発的に研究課題を設定し、計画的、系統的に研究を遂行できる

専任教員	専攻	研究テーマ	主な担当科目
石井 享子 教授	保健福祉学、公衆衛生学	well-beingと人材育成、ケアマネジメント特論	保健医療福祉システム特論、論文研究演習、実践研究演習
伊藤 正子 教授	社会福祉方法論、異なる民族・文化的背景を持つ人々への社会福祉援助	社会的排除とソーシャルワーク、多文化ソーシャルワーク	ソーシャルワーク理論研究特論、論文研究演習、実践研究演習
岩崎 晋也 教授	社会福祉原理、社会福祉思想	社会福祉/原理・思想	社会福祉学特論Ⅰ、論文研究演習、実践研究演習
岩田 美香 教授	児童・家族福祉論、教育福祉論	子育て・子育ての社会的困難に関する研究、貧困家族に対するソーシャルワーク	児童福祉特論、論文研究演習、実践研究演習
佐藤 繭美 教授	ソーシャルワーク論(特に終末期ケアを中心として)、当事者および家族への支援	当事者・家族への支援、死別ケア	ソーシャルワーク特論Ⅱ、福祉社会研究法、論文研究演習、実践研究演習
眞保 智子 教授	若者支援論、就労支援、障害者のキャリアデザイン	若者就労支援、障害者雇用、企業における精神科ソーシャルワーク	障害者福祉特論、論文研究演習、実践研究演習
関司 直也 教授	農業経済学、農山村政策論、地域資源管理論	農山村における地域マネジメント、外部人材と協働する地域づくり	※2019年度はサブディカル(研究専念年度)です
高取 康之 教授	異文化コミュニケーション、英語教育、経営学(マーケティング)	多文化混在社会の今後	原書講読研究(2019年度は非担当)
土肥 将敦 教授	ソーシャルイノベーション、社会的企業家、CSR	ソーシャルイノベーションの創出と普及、社会的企業家研究、CSR研究	地域経営特論Ⅰ、福祉社会研究法、論文研究演習、実践研究演習
中村 律子 教授	高齢者福祉論、老いの比較文化論	高齢者施設処遇史研究、高齢者福祉制度の比較研究	高齢者福祉特論、福祉社会研究法、論文研究演習、実践研究演習
布川 日佐史 教授	公的扶助論、雇用政策論	就労支援と生活保障の目録比較、生活保障自立支援プログラムの検証	社会思想史研究、論文研究演習、実践研究演習
水野 雅男 教授	都市住宅政策論、市民活動運営論	地域木造住宅保全システム研究、被災地復興地域づくり研究、創造都市研究、医療経済研究	都市・住宅政策特論Ⅱ、福祉社会研究法、論文研究演習、実践研究演習
宮城 孝 教授	コミュニティソーシャルワーク、地域包括ケアなどの地域福祉方法論	コミュニティソーシャルワーク方法論、超高齢化地域における包括的な支援策	地域福祉特論、福祉社会研究法、論文研究演習、実践研究演習
保井 美樹 教授	都市・地域計画論、計画行政、自治システム研究	欧米の都市環境システム論、官民連携による地域再生研究、コミュニティ・イノベーションやエリアマネジメントに関する研究	地方自治特論Ⅰ、論文研究演習、実践研究演習
佐野 竜平 准教授	インクルーシブな国際協力・アジア地域開発、障害と開発、東南アジア	東南アジア(アセアン)地域におけるインクルーシブな国際協力・開発の理論と実践	国際協力特論、論文研究演習、実践研究演習
野田 岳仁 准教授	環境社会学、地域社会学、観光社会学	現場に暮らす生活者の立場からの地域づくり、地域ソーリスムの探究	地域環境特論Ⅱ、論文研究演習、実践研究演習
山本 五郎 准教授	コーパス言語学、英語学、辞書学、英語教授法(TESOL)	コーパスを用いた英語の語法研究、英和辞典の項目執筆・編集	原書講読研究
服部 環 兼担教授(科目担当)	教育心理測定学、心理データ解析	項目反応理論と心理データ解析に関する理論と応用	※2019年度はサブディカル(研究専念年度)です

[2019年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

設置科目【修士課程】

福祉社会研究法(2)
ソーシャルポリシー特論(2)
社会思想史研究(2)
データ分析法(2)
原書講読研究(2)
ソーシャルワーク特論Ⅰ/Ⅱ(各2)
ソーシャルワーク理論研究特論(2)
ソーシャルワーク実践研究特論(2)
地域福祉特論(2)
児童福祉特論(2)
高齢者福祉特論(2)
障害者福祉特論(2)
精神保健福祉特論(2)
海外社会福祉研究(2)
生活問題特論(2)
社会福祉学特論Ⅰ/Ⅱ(各2)
保健医療福祉システム特論(2)
リハビリテーション特論(2)
ケアマネジメント特論(2)
福祉経営特論(2)
非営利組織特論Ⅰ/Ⅱ(各2)
国際協力特論(2)
都市・住宅政策特論Ⅰ/Ⅱ(各2)
地域空間学特論Ⅰ/Ⅱ(各2)
地域文化特論Ⅰ/Ⅱ(各2)
地域経営特論Ⅰ/Ⅱ(各2)
地方自治特論Ⅰ/Ⅱ(各2)
地域環境特論Ⅰ/Ⅱ(各2)
福祉社会特論Ⅰ～Ⅳ(各2)
論文研究演習Ⅰ/Ⅱ(各4)
実践研究演習Ⅰ/Ⅱ(各2)

[2019年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

修了生の研究テーマ

- ・精神障がいのある子どもを持つ母親の意識変容
→ 家族参加による肯定的態度への変容過程→
- ・子ども・若者の「居場所」に関する研究
→ 食事を通した関りに着目して→
- ・社会的養護が目指す施設と学校との連携に関する一考察
→ 児童自立支援施設を中心に→
- ・農山村へ向かう若者の変容
- ・東日本大震災からみるコミュニティ再生に向けたソーシャルワークのあり方に関する研究
→ 自治会会長へのインタビュー調査から→
- ・社会的に責任あるグローバル・サプライチェーンの構築
→ サプライチェーン・モニタリングシステムとステイクホルダー・エンゲージメントの考察から→
- ・医療・介護の視点から見た農村地域における地域包括ケアシステムの構築
→ 在宅要介護高齢者への24時間ケア体制から→
- ・中国都市地域における高齢者施設の発展を阻害する要因に関する研究
→ 青島市の市内4区・21ヶ所の高齢者施設の責任者を対象とした調査から→
- ・エコミュージアムの理念にみる中国の生態博物館の現状と課題
→ 特に浙江省安吉生態博物館群の分析を通して→
- ・現代における地域コミュニティ群の機能と意義
→ 東京都三鷹市を事例として→
- ・外国人に対する生活保護準用の不安定性
→ 史的変遷からの考察→
- ・要支援・要介護高齢者における訪問介護サービス利用の要因に関する研究
- ・身体障害当事者による福祉教育の意義
→ 教育方法上の工夫に焦点を当てた実証的研究→
- ・軽・中度要介護高齢者の在宅ケア継続可能性に関する実証的研究
- ・村組の持続と終焉からみた地域コミュニティの変容
- ・都市の人口減少・高齢化地区における生活環境とコミュニティに関する研究
→ 北九州市枝光一区を事例として→